

人間社会研究科 実践福祉学専攻 [修士課程]

ディプロマ・ポリシー(DP)	カリキュラム・ポリシー(CP)
<p>実践福祉学専攻では、実践力、研究力及び指導・管理能力に秀でた専門的な職業人および研究者・教育者養成の観点から以下の要件を満たした者に修士（社会福祉学）の学位を授与する。</p> <p>◆実践福祉学専攻 [修士課程]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークに関する研究力・実践力として、より高度な価値規範・倫理・知識に基づく判断やミクロ・メゾ・マクロレベル、国内外を視野に入れた実践・研究に従事する能力等を有していること。 2. 多職種・機関との協働・連携、人材育成、組織運営管理、組織・社会の変革、資源開発、ネットワーキングに関する能力等を有していること。 3. 科学的根拠に基づく研究・教育活動を行うための技術・知識等を有していること。 	<p>人間社会研究科（修士課程、博士後期課程）では、人間尊重の立場に基づき、科学的根拠に基づいて研究活動を行い、人間の精神、心理、生命、社会などの分野において専門的な知識を修得し、実践力、研究力及び指導・管理能力に優れた専門的な職業人もしくは研究者を養成するために必要な教育課程を編成し、実施する。</p> <p>◆実践福祉学専攻 [修士課程] 実践福祉学専攻では、実践力、研究力及び指導・管理能力に秀でた専門的な職業人および研究者・教育者を養成することを目的としていることから、知識と実践の融合を可能とする循環型教育プログラム（具体的実践⇒知識の補完・修得⇒実践での施行⇒検証・評価⇒（再施行）⇒実践技能化・理論化⇒具体的実践）を志向し、それを可能とする教育課程を編成する。具体的には、原理科目群、実践理論科目群、関連領域科目群、リサーチ科目群により構成され、それぞれの科目群の特徴（科目配置の目的）は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原理科目群には、本学の理念に基づく科目及び実践福祉に関する原理、制度・政策に関する知識を習得する科目を配置する。 2. 実践理論科目群には、ソーシャルワークの実践理論に関連して、基礎を理解する科目に加え、個人・家族、組織、コミュニティなど、ミクロ・メゾ・マクロレベルにわたる実践理論等を習得する科目を配置する。 3. 関連領域科目群には、ソーシャルワークに関連する領域として、国内外におけるソーシャルワークの動向を学ぶことと、自らその動向をつかむ力を習得するための科目である「家族支援」「グリーフケア」「アントレプレナー」「国際社会福祉」に関する科目を配置する。 4. リサーチ科目群には、科学的根拠に基づく研究活動を行うための技術・知識として、リサーチに関する総論・各論、質的・量的研究法について習得する科目、当事者視点に立った社会福祉ニーズの抽出・分析のための調査・研究力を修得する科目を配置する。これらの学びをもとに、社会福祉学に関する研究を行い、修士論文もしくは特定課題研究論文を作成する。修士論文を執筆する場合には、「論文研究演習」にて、実践福祉学の個別分野に関する専門的内容の研究を計画し、研究指導、論文執筆指導を受け、論文を執筆する。特定課題研究を作成する場合には、「特定課題研究演習」にて、実践福祉学専攻の個別分野に関する専門的内容の論文執筆指導を受け、作成する。 <p>これらのカリキュラムにより、高度な専門知識・技術の習得と実践を循環させた教育プログラムにより、“人”と“社会”に対する深い洞察に基づく専門的倫理及びミクロ・メゾ・マクロレベルを視野に入れた高度な実践力を有し、指導・管理能力、研究力に秀でた専門的な職業人及び研究者・教育者を養成する。</p>